

冬来たりなば春遠からじ。冷風に晒されて蠟燭のようにつるのロウバイの花が咲きほのかに香っています。
冬枯れでじつと忍んでいるように見える植物達も、春に向かって新芽の準備をしながら懸命に生きていますね。

別注・OEMは何十枚何百枚というロットが必要だから大型店が対象でした。UTOのカシミアを展開していただいているお店は一枚一枚を丁寧に販売されているお店ばかりで、大量のロットだから可能な掛率の低い別注と言う恩恵に与れる機会はなかなか訪れられません。そこであるお店の別注をきっかけに何店かで相乗りして枚数を達成しようという試みで始めました。
これが可能になったのも自家工場を持つUTOならではの強みと、自負しています。

【有力店の別注に相乗りしませんか？】

売上が低迷する昨今、値入率は経営を左右する大事な要素ですね。
展示会での仕入れの掛率では売れ残ったままなかなか撤しい掛率になってしまいます。
UTOでは有力店から依頼の別注を了解元に相乗りを呼びかけることにしました。

素材は発色の綺麗な高級綿のスーピマ綿、製造は山梨工場と協力工場丁寧な作日本製。自社工場であれば出来ない低掛率です。
元々、一枚一枚セミオーダーを製造しているUTOにとって数のまとまる別注は高効率の製品。その高効率で安く作れた分を掛率に反映させる企画です。

【掛率4.2%・自社工場を実現した低掛率】

完全買取・返品不可
掛率：希望小売価格の4.2%
枚数：12枚以上（全型で）
納品は受注より約1月後
注文時に代金の1/3をお支払いください。
入金確認時点で生産にとりかかります。

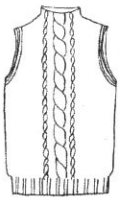
詳しくは当社までお問い合わせください。



ギフチョウ

カシミア100% ボトルネックベスト

No. 1003-1002 ¥48,000.+TAX



毎年人気のローゲージベスト。
今年はボトルネック。
カジュアルにもってこいです。

カシミア100% インターシヤ

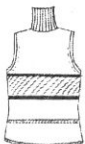
No. 1012-1029 ¥58,000.+TAX



ちょうどお尻の隠れる位の丈のタートル。
柄もシックなので、今年はパンツを合わせてみませんか？

カシミア100% 配色ボレロと配色ベスト

No. 1012-2022 ¥65,000.+TAX
No. 1012-1033 ¥38,000.+TAX



襟にボーダーの配色入れた上品なカーデガンと、シンプルな配色のノースリーブ。
もう少し暖かくなったらアンサンブルでどうぞ。

【南青山境界】

UTOはこんな街から発信しています

鬼平犯科帳の青山

江戸の野外、青山に盗賊たちの隠れ家がある

大好きな池波正太郎。知人から借りた鬼平犯科帳を久しぶりに再読しました。その鬼平犯科帳の第5巻『兇賊』編に青山が登場します。

鬼平の活躍するのは当時江戸の中心と言った下町が主ですが、たまに青山あたりが舞台になることがあります。地の利ある記述に楽しさ倍増で俄然注目してしまいます。

剣客商売では表参道の善光寺が登場しましたが、今回の鬼平では外苑前が登場します。

鷺原の九平（さぎはらのくへい）は60歳を超えたひとりばらきの老盗賊です。江戸での表向きの稼業は『芋酒・加賀屋』という居酒屋の亭主。処は神田豊島町の柳原土手に面した一角で、近所では評判がよく、特に芋膳（いもなます）が美味しいという評判です。その九平が青山にいました。

小説の中では。

そのころ・・・鷺原の九平は、青山の久保町にある居酒屋いせやの中二階に、かくれひそんでいた。

この辺りは、現・港区北青山二丁目にあたる。神

宮外苑前・青山通りの近代建築がたちならぶ現況からは想像もつかぬほどに、約百八十年前のその頃はひなびっていたようだ。

男は通り向こうの梅窓院（ばいそういん）という大きな寺院のわき道を南へぬけた。突き当たりは青山候の下屋敷で、その堀沿いに流れている小川に沿って、男はまっすぐ南へ行く。さびしい煙道となった。このあたりは起伏が多い。雑木林の向こうに大安寺の大屋根がのぞまようという丘の上の百姓屋に、男は入って行った。

青山通りへ走り出て、九平は梅窓院のななめ向かいにある青原寺の三門の前へしゃがみこみ、待ち受けた。果たして・・・文鏡の友吉が青山通りへあらわれた。

たったこれだけですが、港区の図書館でもらった、文政11年（1828）発行の江戸大絵図にも久保町は『クボト』と書いてあります。丁度外苑前駅の三叉路の交差点の辺りです。

通りというのはもちろん今の青山通りで、当時は大道と呼ばれていました。通り向こうの梅窓院の境内が現在はCSKビルになっている。この青山の名前の基になった大名、青山家の菩提寺です。三門の前へしゃがみこんだという青原寺は明治40年の地図には載っていますが、現在は無くなっていきます。外苑駅の出口から秩父宮ラグビー場辺りが当時の青原寺の敷地だと思えます。

今もある梅窓院のわき道を入って行って突き当たりの青山候の下屋敷というのは青山運動場でしょう。ここを含めて後ろの青山墓地がすべて青山候の敷地だったところで、ここから望んだ大安寺は大屋根はありませんが今でも大安寺はあります。小川は窪地を走っている外苑西通り（キラリ通り）のことでしょう。

作者の池波正太郎もここを歩いて当時の様子を想像しながら構想を練ったのかなあ、なんて考えつつ歩いてみるのは楽しいもんですが、こんなにビルが立ち並ぶ現代の風景の中から、江戸の昔を彷彿とさせる情景を描き出す作家の力量には関心するばかりです。

鬼の平蔵

見参！



* ファッション販売員のための ニットの話 * (二十四)

染色堅牢度 (せんしよくけんろうど)

泣かないように泣かないように

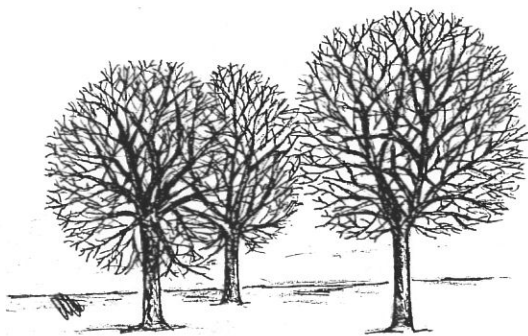
洗濯して半乾りの状態でうっかり置きっぱなしにすると、色がにじんだり、色物や濃色のものから無地ものなどへ色が移ってしまうことがあります。

高価なカシミヤのセーターを洗ってそのままおきっぱなしということはあまりないと思いますが、カシミヤでも色によって移りやすいのと移りにくいものがあります。業界では色が泣くと言います。涙がにじむように色が移ってしまうからでしょう。なかなか面白い言葉ですが、ピッタリの表現だともいえます。

このような染めの堅牢さを一級から五級までの数値で示したのが染色堅牢度で、三級以上でない製品は出来ません。ちなみにUTOの製品はすべて五級です。二級の場合、一番気になるのはポーターやインタージャーなど同じ編地の中にあるような色が混ざっている場合です。染色のペテランの方から、『昔はカシミヤのポーターはよく色が泣いて泣かされたもんだよ』という話をききました。

しかし最近では染めの堅牢度のことで日本製のトラブルは殆ど聞かれませんが、染色堅牢度に関しては日本ほど厳しいところはないようです。

『汚れたら洗濯』という世界の常識に対して、日本人は我が家も含めて『着たら洗濯』というように綺麗好きというが毎日でも着替えて洗濯しないと気がすまない習慣になってしまっています。とにかく洗濯の頻度が多くなっています。毎日洗濯する状況で色落ちや色移りがしたら大変な被害になりかねませんので日本での染色堅牢度は重要で物作りをする方は気をつけています。輸入品の中にはかなり堅牢度の低いものもありますので要注意です。



20年ぐらい前友人とアメリカを1カ月ぐらい車で旅していたときのことで。旅の途中3日4日に一度まとめてコインランドリーで洗濯をしていました。アメリカのちよとした街ならどこにでもコインランドリーは、洗濯、すすぎ、柔軟、乾燥まで出来るのも便利で重宝なものでした。いつものように4日分の洗濯物を全部まとめてコインランドリーに放り込んで本を読みながらのんびりと洗濯が終わるのを待っていました。洗濯終了の合図で開けてびっくり、すべての洗濯物が赤いんです。そのときさうっかりしてニューヨークの量販店で買った綿100%の赤いシャツも一緒に入れていたんですが、この綿シャツの赤の染めの堅牢度が悪くて他の洗濯ものに移ったのは間違いありません。赤いのはこのシャツだけです。でもシャツにはちゃんと洗濯可の表示があるんですよ。

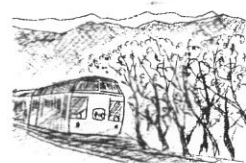
下着からソックス、シャツ、コットンパンツまで赤く、まるで『林やべ』状態です。仕方ないので元凶の赤い綿のシャツを除いてもう一度洗濯しなおして。少しは赤が落ちましたがそれでも殆どピンクでした。日本ではこんなに色落ちするケースを体験することは全くなかったで、思いもかけないところで染色堅牢度がいかに大事かという事例を身を持って体験した出来事でした。

染めの堅牢度の被害では洗濯だけではなく、雨に濡れたり、汗をかいたりすることで他に色が移ってしまうこともあります。こういうときははえてして安いのから高いものを汚染してしまうことが多いものなんです。

忙中雑話・ニットのたわごと

山梨工場への道すがら

山梨に工場が出来てもう2年が経ちました。緑の中を走る山梨への中央線の道すがらは毎日の通勤とはちがう小旅行です。



自宅のある武蔵小金井駅からの高尾行きは、都心と逆方向なので空いてると思いきや新宿方面行きほどではなくても学生などの利用でかなりの混雑です。でもさすがに立川、八王子を過ぎると乗客は少なくなり高尾に着くころはまばらになってしまいます。JRでは高尾までが中央線管内でここからは中央本線です。

電車乗り換え、小淵沢行きは大体ボックスシートに一人のガラガラ状態。仕事をしたり、車窓からの季節の移り代わりを堪能したりできる貴重な時間です。しかし行楽シーズンの土曜日はやはり行楽客で満員。5月の連休の頃、大月まで立ったままということもありました。

高尾を出て約1時間、長い笹子トンネルを抜けると今まで両側に迫っていた山がなくなりバツと空が広がります。勝沼ぶどう郷の駅はホーム辺りから左下に空府盆地が一望に開け素晴らしい眺めです。特に冬晴れの時の眺めは抜群で、三千メートル級の南アルプス峰々が遠望できるので通る度に『今日は見るかなあ』と楽しみます。春、このホームの桜もきれいです。

鉄道旅が好きなので日本のいろんな車窓を見ました。が、この勝沼ぶどう郷駅から塩山の間の眺めは抜群で、日本三大車窓に匹敵すると思っています。三大車窓といわれた北海道の狩勝峠からの眺めは残念ながら列車が通らなくなり、僕が通ったときは霧で眺める機会はありませんでしたが、篠ノ井線の姨捨からの眺めや肥後線の高千穂の眺めに負けずとも劣らない眺めだと思えます。両方とも高所からの遠望が売りだと思えますが、ここからの眺めには南アルプスの眺めがプラスされ十分に匹敵する眺めです。ただ残念なのは時間が短いことでしょうか。一駅を駆け下る間なので気をつけていないとすぐに通り過ぎてしまいます。

塩山に向けて一面のぶどう棚を見下ろして駆け下ると、今まで隠れていた富士山の頭が見えてきます。4月に入って勝沼ぶどう郷の桜が終わると桃の花に変わります。目に飛び込んでくるピンクの桃に気分が華やかになります。石和温泉駅のホームは春のバラが楽しめます。

帰りはほとんど日没後の時間。塩山を過ぎ勝沼ぶどう郷への登りかかると真つ暗な車窓に街の明かりが広がって宝石箱のようにきれいです。この眺めを見終えたらなんとなく安心して読書タイムに入りますが、この頃は眠ってしまうこともあります。疲れもあるけどやはり年のせいなのでしょう。

世界のホテルを旅する(二十四)

元 旅行屋のお勧め ナイロビ、ケニア

ナイロビ ヒルトンホテル

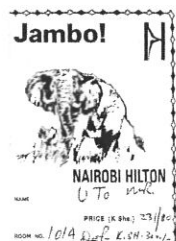
ヒルトンホテルといえばコカコーラやマクドナルドのように、アメリカ発でアメリカの経済進出の先鋒隊みたいなイメージがあります。それなりのグレードを持ち世界共通のサービスを受けられ、特に発展途上国では二を争う近代設備をもつホテル。もちろんここナイロビでもトップクラスのホテルです。

ナイロビヒルトンはナイロビの街のど真ん中にあり東京でいえば銀座四丁目の角に建っている感じ。それが円形の高層ビルですから一目で分かります。

ナイロビ ヒルトンホテルで一番の思い出が、当時日本航空のナイロビ支店にいらした小倉さんのことです。若気の至りというように無謀な仕事で訪れたアフリカ。その拠点ケニアのナイロビでした。小倉さんはそのとき私が最もお世話になった人ですが、山崎豊子の小説『沈まぬ太陽』の主人公、恩地のモデルになった人です。

この本を読んだ人は多いんじゃないかと思うんですが、小倉さんはあの小説の中にあるように本当に人間味あふれる素晴らしい人です。

以前、このニットの便りの『チップトップホテル』でお話したように、治安の悪いナイジェリアでホールドアップに合いながらやと仕事をまとめたのに、今度はそのナイジェリアでクーデターが起こり、苦勞した仕事も水泡に帰してそれこそ命からがらナイロビに帰ってきたときに空港で迎えてくれたのが小倉さんでした。



私の航空券の経路は東京→ナイロビ→ラゴス→ナイロビ→東京、東京→ナイロビ間は安く探したエアラインで発行のものを、ナイロビ→ラゴス間はパンナムのものでした。どうして日本航空の人がアテンドしてくれるんだろうが不思議でした。

クーデターが起こってナイジェリアを脱出する邦人保護と確認をするために東京の外務省から緊急手配の連絡がアフリカ、ヨーロッパ中の航空会社に入っていたらしく、そこへ日本人の名前があったので当時ナイロビに居られた小倉さんが空港まで迎えに来てくださったんだそうです。

その後小倉さんにはいろんなことを教えていただき、これが縁で日本航空とも仕事をすることになりました。後日、超エリートで人柄も素晴らしい小倉さんがなぜ日本航空の飛んでいないナイロビにいらしたのかあの本を読んで解ったんですが、当時の小倉さんはそんなことはおくびにも出されないうらやましい人でした。この通信で紹介した、木の上にあるホテル、ツリートップスを教えて頂いたのも小倉さんでした。その小倉さんは数年前に亡くなられてしまいました。心よりご冥福をお祈りします。